

(19) 日本国特許庁(JP)

(12) 登録実用新案公報(U)

(11) 実用新案登録番号

実用新案登録第3142993号
(U3142993)

(45) 発行日 平成20年7月3日(2008.7.3)

(24) 登録日 平成20年6月11日(2008.6.11)

(51) Int.Cl.

F 1

E O 4 F 11/18 (2006.01)

E O 4 F 11/18

E O 4 B 1/00 (2006.01)

E O 4 B 1/00 5 O 1 L

評価書の請求 未請求 請求項の数 3 O L (全 7 頁)

(21) 出願番号 実願2008-2594 (U2008-2594)
(22) 出願日 平成20年4月22日(2008.4.22)(73) 実用新案権者 591009060
山田建設株式会社
東京都大田区北千束1丁目11番3号
(74) 代理人 110000051
特許業務法人共生国際特許事務所
(72) 考案者 山 田 健 治
東京都大田区北千束1丁目11番3号 山
田建設株式会社内

(54) 【考案の名称】 手摺り用支柱

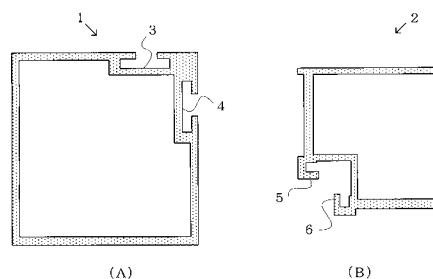
(57) 【要約】

【課題】支柱が正面パネルと側面パネルの室内側に設けられ、かつ、正面パネルと側面パネルの各端面が外側から見えないように、手摺りのコーナーを直角に縁取ることができる手摺り用支柱を提供する。

【解決手段】本考案による手摺り用支柱は、ベランダのコーナーに立設され、正面パネルと正面パネル用レールならびに側面パネルと側面パネル用レールが、互いに直角となるように取り付けられる支柱部材と、前記支柱部材の上から角が重なるように挿入され、前記正面パネルと正面パネル用レールの端面ならびに前記側面パネルと側面パネル用レールの端面に相対して、手摺りのコーナーを直角に縁取るようにした支柱補助部材と、からなる。

。

【選択図】 図 1



【実用新案登録請求の範囲】**【請求項 1】**

ベランダのコーナーに立設され、正面パネルと正面パネル用レールならびに側面パネルと側面パネル用レールが、互いに直角となるように取り付けられる支柱部材と、

前記支柱部材の上から角が重なるように挿入され、前記正面パネルと正面パネル用レールの端面ならびに前記側面パネルと側面パネル用レールの端面に相対して、手摺りのコーナーを直角に縁取るようにした支柱補助部材と、からなることを特徴とする手摺り用支柱。

【請求項 2】

前記支柱部材には、正面に上下に延びる第 1 凹部が、側面に上下に延びる第 2 凹部が設けられるとともに、

前記支柱補助部材には、一側面に前記第 1 凹部に嵌め込まれる上下に延びる第 1 鉤形部が、他側面に前記第 2 凹部に嵌め込まれる上下に延びる第 2 鉤形部が設けられることを特徴とする請求項 1 に記載の手摺り用支柱。

【請求項 3】

前記支柱部材は、ベランダのコーナー垂直面に取り付けるため、角に上下方向に延びる切欠き凹部が設けられることを特徴とする請求項 1 に記載の手摺り用支柱。

【考案の詳細な説明】**【技術分野】****【0001】**

本考案は、ベランダに設置される手摺りに係り、より詳細には、正面および側面に設けられるパネルの端面あるいは正面および側面に設けられるレールの端面が外から見えないように隠して、外観を向上させることができる手摺り用支柱に関する。

【背景技術】**【0002】**

一般に、住宅のベランダに設けられる手摺りには、通風性と採光性に優れる縦格子、目隠し効果があり通風性にも優れるガラリ、採光性と目隠し効果に優れるすりガラスなどがある。これらを所定の形状に枠取りしたパネルと、パネルが嵌め込まれるレールからなる手摺りが提案されている。（特許文献 1 参照）

【0003】

パネルが支柱に固定される手摺りは、強風などの大きな力を受ける場合もあるので、支柱は太くて堅固なものとされる。支柱は、外から見えないようにするのが望ましく、支柱はパネルの内側に取り付けられる。中高層の集合住宅のように手摺りの両側に簡単な仕切り壁があり、手摺りがベランダの正面側に設置される場合は、パネルの両側端が端面カバーで覆われるので、両側端の窪みなどが外側からは直接見えないようにできる。しかし、マンションなどの左右端の部屋では、部屋の仕切り壁がないので、ベランダには、正面側パネルと側面パネルからなる手摺りが必要となる。この場合、手摺りのコーナーでは、正面パネルまたは側面パネルの端面が外側から見えることとなるので、手摺りのコーナーの外観を向上させることが望まれている。

【特許文献 1】特開 6 - 2 4 8 8 5 4 号公報**【考案の開示】****【考案が解決しようとする課題】****【0004】**

本考案の目的は、支柱が正面パネルと側面パネルの室内側に設けられ、かつ、正面パネルと側面パネルの各端面が外側から見えないように、手摺りのコーナーを直角に縁取ることができる手摺り用支柱を提供することにある。

【課題を解決するための手段】**【0005】**

上記の目的を達成するため、本考案による請求項 1 に記載の手摺り用支柱は、ベランダ

10

20

30

40

50

のコーナーに立設され、正面パネルと正面パネル用レールならびに側面パネルと側面パネル用レールが、互いに直角となるように取り付けられる支柱部材と、前記支柱部材の上から角が重なるように挿入され、前記正面パネルと正面パネル用レールの端面ならびに前記側面パネルと側面パネル用レールの端面に相對して、手摺りのコーナーを直角に縁取るようにした支柱補助部材と、からなることを特徴とする。

【0006】

本考案による請求項2は、前記支柱部材には、正面に上下に延びる第1凹部が、側面に上下に延びる第2凹部が設けられるとともに、前記支柱補助部材には、一側面に前記第1凹部に嵌め込まれる上下に延びる第1鉤形部が、他側面に前記第2凹部に嵌め込まれる上下に延びる第2鉤形部が設けられることを特徴とする。

10

【0007】

本考案による請求項3は、前記支柱部材は、ベランダのコーナー垂直面に取り付けるため、角に上下方向に延びる切欠き凹部が設けられることを特徴とする。

【考案の効果】

【0008】

本考案による手摺り用支柱によれば、支柱部材に支柱補助部材を取り付けたので、正面パネルと側面パネルの各端面が、外側から見えないようにできる。合わせて正面パネルまたは側面パネルが搭載されるレールの端面も外側から見えないようにできる。支柱部材は、ベランダの上面のコーナーに1本立設すればよく、例えば、手摺りの中間を支える中間支柱をコーナーに2本立設するのに比較して、設置工数が少なくできる。支柱補助部材は、支柱部材に挿入して嵌め込むので、簡単に取り付けることができる。

20

【0009】

請求項2の考案によれば、支柱部材には、正面の上下に延びる第1凹部と、側面の上下に延びる第2凹部が形成され、支柱補助部材には、第1凹部に嵌め込まれる上下に延びる第1鉤形部と、第2凹部に嵌め込まれる上下に延びる第2第1鉤形部が形成されるので、正面方向にも、側面方向にも支柱補助部材が抜け出ないようにできる。

【0010】

請求項3の考案によれば、支柱部材には、切欠き凹部が設けられるので、支柱部材をベランダのコーナーの垂直面に容易に取り付けることができる。

【考案を実施するための最良の形態】

30

【0011】

以下、図面を参照して、本考案による手摺り用支柱を説明する。

【実施例1】

【0012】

図1は、本考案による手摺り用支柱の支柱部材と支柱補助部材の平面図である。手摺り用支柱10は、支柱部材1と、これに上から挿入され嵌め込まれる支柱補助部材2からなる。図1(A)は支柱部材1の平面図である。支柱部材1は、中空の角筒形で、正面パネルが取り付けられる面には上下に延びる第1凹部3が形成されている。また、側面パネルが取り付けられる面には上下に延びる第2凹部4が形成されている。

【0013】

40

図1(B)は支柱補助部材2の平面図である。支柱補助部材2は、中空の角筒形で、一側面には、第1凹部3に嵌め込まれる上下に延びる第1鉤形部が形成されている。他側面には、第2凹部4に嵌め込まれる上下に延びる第2鉤形部が形成されている。図1(A)の第1凹部3と第2凹部4には、反対向きのもう1つの凹部が形成されている。これは正面パネルまたは側面パネルを嵌め込むための凹部である。第1鉤形部と第2鉤形部が嵌め込まれる第1凹部3と第2凹部4のみの構成としてもよい。

【0014】

図2は、本考案による手摺り用支柱の平面図で、手摺りのコーナー部分を含む。支柱部材1に支柱補助部材2が取り付けられ、周囲の正面パネルと側面パネルは一点鎖線で示す。図2に示すように、手摺り用支柱10は、支柱部材1に支柱補助部材2が嵌め込まれた

50

ものである。第 1 鉤形部と第 2 鉤形部が、第 1 凹部 3 と第 2 凹部 4 に嵌め込まれるので、左右前後方向に支柱補助部材 2 が動くことはない。ここでは、支柱部材 1 は、コンクリートのベランダ 20 上面のコーナーに立設されている。

【 0 0 1 5 】

図 2 の一点鎖線で示すように、正面パネル 1 1 と側面パネル 1 2 が、正面パネル用レール 1 7 と側面パネル用レール 1 8 に搭載される。正面パネル用レール 1 7 と側面パネル用レール 1 8 は支柱部材 1 の側面にボルト等で固定される。正面パネル 1 1 と側面パネル 1 2 の端面には、この実施例では端面カバー 1 3 a、1 3 b が設けられる。端面カバー 1 3 a、1 3 b の一端が、第 1 凹部 3 と第 2 凹部 4 に嵌め込まれる。端面カバー 1 3 a、1 3 b が、パネルによっては設けられない場合もある。支柱部材 1 と他の支柱との間には、フットカバー 1 6 a、1 6 b が設けられる。支柱部材 1、支柱補助部材 2、正面パネル 1 1、側面パネル 1 2 の上部には、キャップ 1 4 a、1 4 b、1 4 c が被せられる。キャップ 1 4 a、1 4 b、1 4 c は嵌め込み式でキャップ受け 1 5 a、1 5 b、支柱部材 1 などに固定される。

【 0 0 1 6 】

図 3 は、本考案による正面パネルと側面パネルを含む手摺りのコーナー部分の斜視図である。正面パネル 1 1 と側面パネル 1 2 は、ここでは縦格子のパネルとした。パネルをガラリやすりガラスとしてもよい。支柱部材 1 は、支柱補助部材 2 が嵌め込まれてベランダ 20 のコーナーに立設される。支柱部材 1 の下部には正面パネル用レール 1 7、側面パネル用レール 1 8 が取り付けられる。また、フットカバー 1 6 a、1 6 b が取り付けられる。支柱部材 1、支柱補助部材 2、正面パネル 1 1、側面パネル 1 2 の上部には、キャップ 1 4 a、1 4 b、1 4 c が被せられる。なお、キャップをキャップ 1 4 a、1 4 b の 2 つで構成し、支柱部材 1 の上部の対角線上で係合するような形状としてもよい。

【 0 0 1 7 】

引出円 C 1 に示すように、キャップ 1 4 a は、支柱部材 1 と正面パネル 1 1 の上部に嵌め込まれる。引出円 C 2 は、矢印 A 方向から見た、支柱補助部材 2 と側面パネル 1 2 を取り外した状態の正面図である。引出円 C 2 に示すように、支柱部材 1 の底部は、アンカーボルトでベランダ 20 に固定される。また、正面パネル用レール 1 7 は、支柱部材 1 にボルト等で固定される。正面パネル用レール 1 7 の溝に正面パネル 1 1 が嵌め込まれる。

【 0 0 1 8 】

引出円 C 2 に示す正面パネル 1 1 の端面、正面パネル用レール 1 7 の端面は、支柱補助部材 2 によって外から見えない。また、側面パネル 1 2 の端面、側面パネル用レール 1 8 の端面も、支柱補助部材 2 によって外から見えない。隙間に挟まれたりしないので安全性も向上する。

【 実施例 2 】

【 0 0 1 9 】

図 4 は、本考案による手摺り用支柱の支柱部材と支柱補助部材の平面図である。(A) は支柱部材、(B) は支柱補助部材の平面図である。実施例 1 との違いは、支柱部材 1 の角に切欠き凹部 7 が設けられていることである。これにより、支柱部材 1 をベランダ 20 のコーナーの垂直面に取り付けることができる。切欠き凹部 7 は、支柱部材 1 の上下方向に延設される。なお、切欠き凹部 7 は、支柱部材 1 の下部のベランダ 20 に取り付けられる部分にのみ設けて、支柱部材 1 の上部は矩形状としてもよい。

【 0 0 2 0 】

図 5 は、本考案による手摺り用支柱の平面図である。実施例 2 では、手摺り用支柱 1 0 が、ベランダ 20 のコーナーの垂直面に L 金具を使用しボルト等で取り付けられる。これにより正面パネル 1 1、側面パネル 1 2 をベランダ 20 の外側に突き出すように設置できる。支柱補助部材 2 の第 1 鉤形部 5 と第 2 鉤形部 6 が、支柱部材 1 の第 1 凹部 3 と第 2 凹部 4 に嵌め込まれるので、支柱補助部材 2 は前後左右方向に動くことはない。なお、図示していないが、支柱補助部材 2 を支柱部材 1 に嵌め込んだ時、支柱補助部材 2 は支柱部材 1 の底部のストッパで係止されるようになっている。実施例 2 のキャップ 1 4 a、1 4 b

は、支柱部材 1 の上部の対角線上で係合するような形状とした。正面パネル用レール 1 7、側面パネル用レール 1 8 は、実施例 1 と同じである。手摺り用支柱 1 0 は、ベランダ 2 0 のコーナーに 1 本立設すればよく、手摺りの中間を支える中間支柱をコーナーに 2 本立設するのに比較して、設置工数が少ない。また、支柱補助部材 2 の幅は、レールの幅程度で済み、支柱部材 1 の幅を加える必要がないので、外観をスリムにできる。

【産業上の利用可能性】

【0021】

本考案による手摺り用支柱は、正面パネルと側面パネルが設けられるベランダのコーナーに好適である。

【図面の簡単な説明】

10

【0022】

【図 1】本考案による手摺り用支柱の支柱部材と支柱補助部材の平面図である。(A)は支柱部材、(B)は支柱補助部材の平面図である。(実施例 1)

【図 2】本考案による手摺り用支柱の平面図である。手摺り用支柱は、支柱部材 1 に支柱補助部材 2 が取り付けられ、ベランダ上面のコーナーに設置される場合を示す。正面パネルと側面パネルは一点鎖線で示す。(実施例 1)

【図 3】本考案による正面パネルと側面パネルを含む手摺りのコーナー部分の斜視図である。(実施例 1)

【図 4】本考案による手摺り用支柱の支柱部材と支柱補助部材の平面図である。(A)は支柱部材、(B)は支柱補助部材の平面図である。(実施例 2)

20

【図 5】本考案による手摺り用支柱の平面図である。手摺り用支柱は、ベランダコーナーの垂直面に取り付けられる場合を示す。(実施例 2)

【符号の説明】

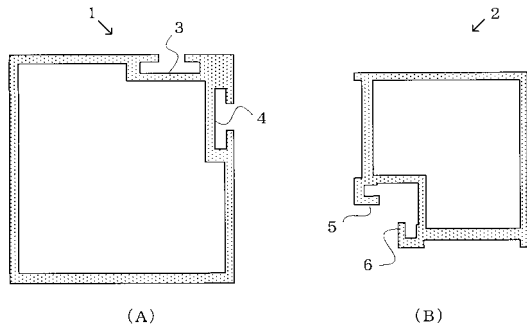
【0023】

- 1 支柱部材
- 2 支柱補助部材
- 3 第 1 凹部
- 4 第 2 凹部
- 5 第 1 鉤形部
- 6 第 2 鉤形部
- 7 切欠き凹部
- 10 手摺り用支柱
- 11 正面パネル
- 12 側面パネル
- 13 a、13 b 端面カバー
- 14 a、14 b、14 c キャップ
- 15 a、15 b キャップ受け
- 16 a、16 b フットカバー
- 17 正面パネル用レール
- 18 側面パネル用レール
- 20 ベランダ

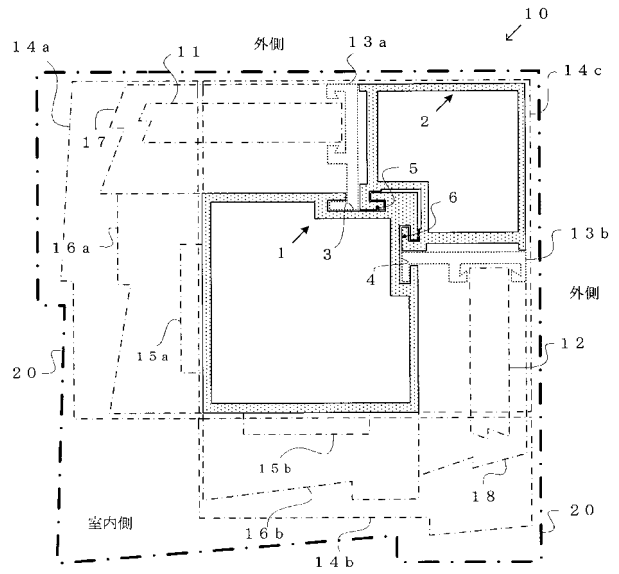
30

40

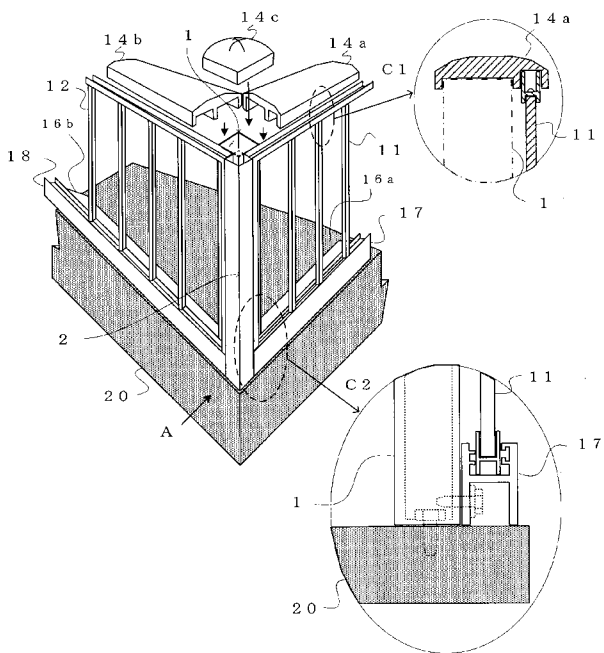
【図 1】



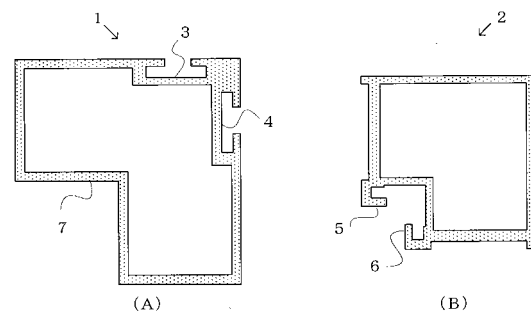
【図 2】



【図 3】



【図 4】



【図 5】

